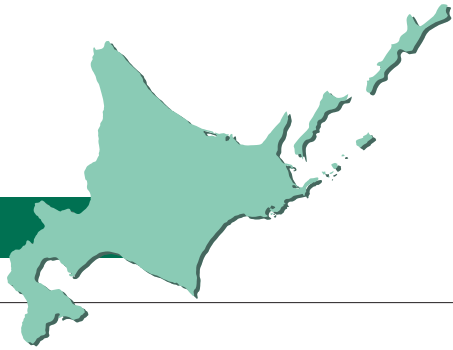
6月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DIがそろって悪化　改善傾向腰折れか

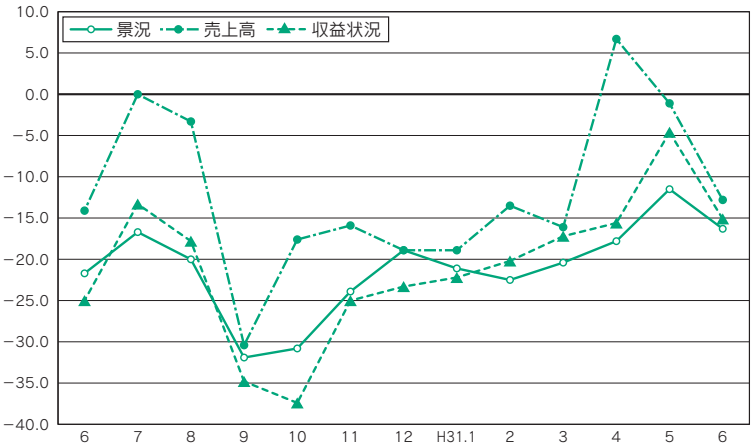


概　況

主要DIの推移では、「景況」「収益状況」「売上高」全ての項目が悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「販売価格」「雇用人員」で若干改善したが、そのほかの項目が悪化し、特に「売上高」「収益状況」が大幅に悪化した。非製造業では全項目で悪化し、特に「売上高」が大幅に悪化した。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	5月	前月比
業界の景況	△11.5	△16.3	△4.8 ↘	△15.2	△25.0	△9.8 ↘	△9.3	△11.1	△1.9 ↘
売上高	△1.1	△12.8	△11.6 ↘	3.0	△12.5	△15.5 ↘	△3.7	△13.0	△9.3 ↘
収益状況	△4.6	△15.1	△10.5 ↘	△3.0	△21.9	△18.8 ↘	△5.6	△11.1	△5.6 ↘
販売価格	9.2	5.8	△3.4 ↘	6.1	6.3	0.2 ↗	11.1	5.6	△5.6 ↘
取引条件	△2.3	△4.7	△2.4 ↘	△3.0	△6.3	△3.2 ↘	△1.9	△3.7	△1.9 ↘
資金繰り	△2.3	△5.8	△3.5 ↘	△9.1	△12.5	△3.4 ↘	1.9	△1.9	△3.7 ↘
雇用人員	△5.7	△5.8	△0.1 ↘	△3.0	0.0	3.0 ↗	△7.4	△9.3	△1.9 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・原材料価格は安定しつつある。（水産食料品／全道）
・各社値上げの周知がほぼ終わり、6月から値上げをしているところが多いが、まだまだ値上げできずに収益を圧迫している。小規模の会社は人手も高齢化で若者は集まらず春先は縮小と業界としてはよくならない。（めん類／全道）
・5月単月で、味噌・醤油の出荷量は前年比減。5月は、4月の仮需の影響あり。道内の1月～5月の累計では前年対比、味噌101.7%、醤油99.1%と善戦している。（味噌・醤油／全道）
・6月も天候は大きく崩れることなく推移したことと、日曜日が昨年より1日多く、大型店には集客に追い風となった。また各ジャンルの飲料水がまんべんなく売れた。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツは、強保合～強含み。エゾ・トドマツは、弱保合～強保合。原木市況は、カラマツは、保合～強保合。エゾ・トドマツは、保合～強保合。カラマツ原木は、地域差はあるが不足感はまだまだある模様。製材では注文は順調に入っている模様。ラミナがやや低調とのこと。エゾ・トドマツ原木は、カラマツよりは不足感は解消されつつある模様。原木価格の高値であることから製品の値上げも今後ある模様。小径材については、いまだに慢性的に不足している状況。（一般製材／全道）
・6月の生コン出荷量は308千m^3で、前月比は26.8%増、前年同月比は1.1%増となった。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中、13分会（協組）で前年（増加は13分会（協組））と同数。前年同月と比較して、増加したのは釧路、岩宇、北渡島など。一方、減少したのは富良野地区、札幌、小樽などであった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・建設業には働き方改革は猶予があるとはいえ、秋口の繁忙期には休みの増加による生産性の悪化が予想される。業者間でヒマな業者と忙しい業者の二極化が進んでいるような感覚もある。組合員の脱退もあり、今後も当組合含め他の組合の状況が気になる。どのようにして組合の存続に危機感があり、組合員の増強をしたい。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・自動車・鋳鋼品は普通。水道資材はやや悪い。建設機械は普通。農業機械・一般鋳物はやや悪い。米中貿易摩擦の影響が出ているようだ。運賃の値上げ要請がある。労務費や運賃コストの上昇で負担が拡大している。（銑鉄鋳物／全道）
・組合員の業況は、地域の若者の減少などで組合員事業所は人材確保に益々苦慮している。2～3年で退職する人が多く、新規採用も厳しい状況になっている。造船業界の状況としては、2019年度上期の造船向け鋼材価格交渉が開始、5,000円程度の値上げの方針で、トン当たり70,000円中から後半程度で推測している。赤字決算に苦しむ国内造船業界にとっては死活問題である。（金属製品／室蘭）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・一般消費財では夏物季節商品が動き出し増収となったが、物流コストの上昇により増収に見合う収益が上がっていない。ゼロ国債の反動で官公庁需要を抱える企業は減収となった。団地再整備は12月の建物完成に向かって順調に工事が進行している。（各種商品／札幌）
・当月は前年より1日営業日数が少なく、売り上げではやや苦戦。気温が高い日もありやや菓子の売上に影響があった。収益では引き続き物流コストがかさんでおり、減益が多い。（菓子／全道）
・引き続き夏物家電の販売が好調で、大型家電量販店の売上と、レジャー関連の売上が増加し、前年を上回った。キャッシングにおいては、前年より減少し、収益では加盟店手数料が同業他社との競争激化と、キャッシュレス消費者還元事業の低手数料明示に伴う既存店の取引条件低減による悪化もあるため減少した。（各種商品／旭川）
・昨年の4月からスタートした一店逸品ブランド「セレクト朝市」の第2回目の審査会が開かれ、今回新たに14品が加わり、30店舗・団体の計33品が認定された。今後は「セレクト朝市」商品の新たな販売手法として、キャッシュレス店舗のモデル事業「（仮称）TABIYAKU-GO」を開始する予定。概要としては、現在、鋭意実行している「タビヤク -TABIYAKU」と連動させた仕組みで、朝市のインフォメーションカウンターで「セレクト朝市」商品をタビヤクのサポートを受けながら、アリペイやウィーチャットペイなど国内外5社のQR決済によって一括販売し、その後、タビヤクの案内で各店舗に行って商品を受け取る流れを想定している。また、そこでは昨今社会問題にもなっている訪日旅行客向けの保険も取り扱う予定で、外国人が使い慣れているキャッシュレス決済の浸透を図ると共にその利便性から保険問題の解消にもつなげていくことが目的。（各種商品／函館）
・6月は入荷が少なく時鮭などあまり価格が下がらず生イカの価格も上がり、魚全体良くなかった。観光ではよさこい、札幌祭で全体では昨年より客数が落ちている。（各種食料品／札幌）
・売上高対前年同月比85.38%の実績。来店客数も減少し固定先の売上が大きく影響した。（野菜・果実／札幌）
・売上数量は前年並みであったが、6月に入り原油価格が続落し、市場価格も6月中旬から昨年同期に比べ1ℓ当り10円前後下落した事により売上高は減少した。人手不足はなんとか解消したが、働き方改革の影響が今後心配される。（燃料小売業／稚内）
・昨年と同様、今年も6月は天候不順で売れ行き、修理とも落ち込んでいる。昨年の条例施行で保険附帯のTSマークの伸びが期待されたが、思ったほどの伸びではない。（自転車・自動車／全道）
・組合昨年比では売上97%。大型スーパー1件（昨年リニューアル）が昨年比の落ち込みで全体を下げているが、各業種ともほぼ前年並みの状況。芦別に1店しかない書店が6月をもって閉店した。（各種商品／芦別）
・6月の販売・収益状況等を見ると、原油価格が引き続き高値基調で推移していることなどを受け、卸売価格と販売価格に予想以上のかい離がある。また、消費者の節約基調は一層顕著となっており、市況を悪化させる種々要因も解消されないまま販売量も大幅に落ち込むなど、依然厳しい経営環境が続いている。さらに、遠出を含めた旅行等、消費者の需要増を見込む販売業者も多かったがこれまで同様、消費意欲は停滞傾向にあり、燃料油や油外販売に好影響を与える要素も見受けられなかった。（燃料／全道）
・暑さが続かずエアコンの状況が今一歩進まない。消費税10%の影響の駆け込みがいまのところない。4Kテレビの価格が後発メーカーオリジナルで安い状況が続いている。（電気機械器具／全道）
・藤丸百貨店の5月売上高は、3億7,238万円（前年同月比6.8%減）。6月、共通駐車券の利用は、前年比96.9%、買物共通バス券の利用は、前年比104.7%。NHK連続テレビ小説「なつぞら」がスタートして3ヶ月、観光入込客数の増など「なつぞら」効果に期待。（帯広市／帯広）
・大手企業を中心に2019年度も積極的なIT投資が増加している。業務効率化や省人化の手段となる、定型業務の自動化（RPA）やAIを活用した新規事業の創出に必要なシステム開発案件が潤沢で、その受託開発先を道内中小IT企業に求めるケースが増加している。ただ、受注側の道内の中小受託システム開発企業は慢性的な人手不足や高度な技術に対応できる人材不足で思うような案件獲得には至っていない。今後も高度な技術スキルを要求される案件が増加すると予想されることから、高度な技術スキルを習得する技術系社員の育成に悩む経営者の声が多い。2020年3月卒業の理系学生の80%がすでに内定を得ている反面、道内の中小IT企業の新卒採用は厳しい状況が続き、現状では採用目標数を確保できた企業は少なく、採用「0名」の中小IT企業も多い。さらに2021年以降デジタル化やグローバル化の進展で大手企業が通年採用に乗り出すと、採用に人手やコストをかけにくい中小企業は一段と不利になる。特に中小IT企業の多い道内では理系の人材確保がますます厳しさを増し、新卒学生の採用が厳しくなることが確実な状況だ。そのため、工業系の高卒人材の採用に積極的に検討を始めた道内の中小IT企業が出てきている。2021年春大学卒業予定の学生に対するインターンシップ（就業体験）が本格的に始まり、事実上の就活がスタートした。早く優秀な学生を囲い込むために参加者をその時点で選考するなど、北海道内でもインターンシップを利用する採用直結型が主流になる中小IT企業が増えると思われる。（ソフトウェア／全道）
・景況感は、改善傾向にあるが、「増加・上昇・好転」にまでは至っていない状況。（自動車整備／苫小牧）

非製造業（建設・運輸業）

・6月の業況は、先月の連休後に引き続き公共工事の発注状況及び発注予定工事は顕著にあらわれている。住宅着工件数は、全道に於いては前年と比較すると10%強減。民間においては、改修施設、マンション、大型建設物件などの発注に注視したい。（電気工事／全道）
・6月発注の公共工事及び受注機会は前年並みと判断していて、当初予定していた公共事業は順調に発注されている市内建設業等、各社とも慢性的な人材不足となっており特に技術・技能職の確保が難しくなってきている。問題点は、10月の消費増税の関係で、まだ、公共事業は前半の情報しかなく、後半の事業が公表されていないことから、今後の発注量がどれほどあるのか不透明。（管工事／名寄）
・全般に物資の動きが鈍い状況が続いている。（一般貨物自動車運送／小樽）
・農産物の全般について北海道発、道外向けの貨物の荷動きは例年より鈍い。一般カーゴについても荷動きが鈍い。道外発の到着貨物についても減少傾向になっている。飲料については気温が低かった影響もあり、例年より小幅であるが減少傾向。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比7.7%減少。乗務員数は前年同月比7.1%減少。5月分チケット問扱い高は前年同月比4.0%減少。（一般乗用旅客／旭川）